



児童らに泳ぎ方を教えた柴田亜衣さん

五輪金メダリストから教わったよ

柳川市民温水プール5周年記念行事

市民温水プールで3月4日、市営5周年の記念行事が行われました。アテネ五輪金メダリストの柴田亜衣さんを迎えた水泳指導があり、小学生から大人まで参加。腕や足の使い方などの基本動作を教わった初級コースの19人の児童は、目を輝かせながら練習に取り組んでいました。また、5年間で利用回数が最も多かった5人の利用者への表彰や、1等はテレビが当たったラッキー抽選会などがあり、会場は大いに盛り上がりました。

上出来の新酒に舌鼓

目野酒造で酒蔵まつり

柳川で唯一の造り酒屋、目野酒造（百町）で、春の恒例となっている酒蔵まつりが3月3日と4日に催されました。杜氏の目野信太郎さんによれば、今年のお酒は切れがよく、近年にないほどの出来だとか。原料の酒米の出来が良かったことと相まって、仕込みの時期に気温が下がったことが良い結果をもたらしたそうです。酒蔵まつりには2日間で約3300人が来場。振る舞われたしぼりたての新酒や、たる酒に舌鼓を打っていました。



500円でお酒10種類が試飲できるコーナーも人気

市民のひろば

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています

柳川が舞台の狂言を披露

水の郷まつりで狂言「柳川雛」



狂言「柳川雛」を熱演した網谷さん(右)と吾妻さん

3月4日、水の郷まつり「花競 弥生水郷」がありました。水の郷ホールでは、京都在住で大蔵流狂言師の網谷正美さんと古典日本舞踊を教える吾妻豊太郎さんらによって狂言「柳川雛」が披露されました。柳川で一番のひな飾りを買うため、吾妻さん演じる妻が網谷さん演じる夫の持ち物を次々と売っていくという演目に、会場の約250人は笑いの渦に包まれました。水の郷ホールでは、このほかにも古典日本舞踊教室の生徒や泉徳弓社中による日本舞踊などが披露されました。

巧みな話術に会場は大爆笑

カルチャル柳川ふれあい文化事業

身近に一流の芸術文化に親しんでもらおうと2月26日、市民会館でカルチャル柳川ふれあい文化事業が催されました。今年は林家正蔵さんと三平さんの兄弟ら4人を招き、日本の伝統的な話芸である落語を楽しみました。取りを務めた正蔵さん。ちょっとしたネタでも大きな笑いが起きる会場に「今日はやりやすいですね」と大満足。父親で師匠の先代三平から唯一教えてもらったという古典落語「味噌豆」と、創作落語「読書の時間」をユーモアたっぷりに披露し、会場の爆笑を誘いました。



身ぶりを交えて会場の爆笑を誘った林家正蔵さん

たくさんの体験が子どもをはぐくむ

平成23年度家庭教育講演会



通学合宿の意義について熱く語った正平辰男特任教授

大和公民館で2月25日、家庭教育講演会がありました。実践発表では、22年度から行っている皿垣校区通学合宿について同実行委員会役員の堤秀樹さんが「親元を離れた子どもたちがある程度の不自由さを味わうことで、自主性や協調性などを学び、生活力の向上につながった」と話しました。また、純真短期大学の正平辰男特任教授が「今求められる子どもの育ちと親の育ち」と題して講演し、「今の子どもたちは、社会の変化や少子化で以前と比べて体験不足。それを補うのが通学合宿だ」と語りました。

俳句

引鴨や一度旋回松濤園

今月の入選作品・課題「引鴨」

- | | |
|--|--|
| 草の戸に昭和の雛をそつと置き
何故帰る鴨ももうすぐ春なのに
ぼんぼりの灯ればやさし内裏雛
控えめな手作り雛のいじらしさ
道すがら雛の座敷を眺め行く
雛飾り終えて客待つ城下町
内裏雛愛していますお互いに
おひな様今年も逢えて嬉しかり
ひな祭りそつと着物の袖通す
雛巡り昔を偲ぶ路地バンコ
年古りて小さき箱雛茶籠等に
小雨ふる白壁のまちひなめぐり
老いらくのそそる陽気にひなめぐり
いにしへの雛おわします奥座敷
鴨帰る寂しき庭となりけり
春が来て親鴨子鴨古里へ
もうよかる婚期はずすと雛仕舞い
年月を重ねてもなお雛若し
押し入れに眠りいる雛飾りつけ | 谷 祥子 (柳町)
後藤正毅 (金納)
田中興志子 (六合)
西山幸子 (垂見)
田中位緒枝 (豊原)
森 フチエ (弥四郎町)
野村美智子 (旭町)
平田光子 (塩塚)
野口美恵子 (上宮永町)
甲木幸栄 (蟹町)
黒田和代 (吉富町)
松村千代美 (本城町)
小柳エツ子 (中島)
持永マサ子 (新外町)
古賀俊郎 (新外町)
中原由美子 (百町)
江口和子 (今古賀)
古賀治美 (南浜武)
田中清美 (中島) |
|--|--|

【句評】殿様の粉を賜はる池の鴨は柿原羅月さんの句、発表されかれこれ五十年ほどたつ、毎年松濤園に来る鴨を詠まれたものです。そのころは当主の立花和雄さんも若く、餌場に降り粉をまく姿が見られたものでした。当時三、四百の鴨にわく松濤園でもありました。

今月の哲之さんの句、名残を惜しみながら帰っていく姿が「一度」の措辞にこめられているのです。

選者の句

雨の中番となりて鴨帰る

鬼郎

俳句を募集しています。選句者は大曲鬼郎さん。4月の課題は「橋」「落椿」です。入選作品は4月15日号に掲載します。

●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報係(☎77・8425、FAX 74・5520)へ、3月30日(※必着)までにお送りください。